

【問題提起】

第6分科会「ともに育ちあう職場づくりー看護・介護の喜びを伝えたいー」

- ◇運営委員（敬称略） 伊藤 絹江（福岡医療団訪問看護ステーションコスモス）
伊藤 リカ（介護老人保健施設柏ヶ丘）
井上 裕紀子（みさと協立病院）
- ◇助言者（敬称略） 山田 かおる（東京勤医会東葛看護専門学校副校長）

社会保障とりわけ医療・介護をめぐる情勢は、安倍政権の突き進む社会保障費削減政策により年々深刻さを増し、多くの医療難民・介護難民が生まれています。医療や介護の現場では、人手不足が解消されぬまま看護師も介護士も忙しさの中で「やりがいを感じない」現実に疲弊し、メンタル不全を抱える者も増えています。また、国家資格を取り入職しても理想と現実のギャップに困惑し、離職していく職員が少なくないため受け入れ側にもゆとりがなく、共に育ちあう風土が失われつつあります。また、2015年に在宅医療・介護を促進させるために強行された「医療介護総合確保推進法」により吸引や経管栄養などの医行為を介護職が担い、本来医師が行うべき医療処置を「特定行為（医行為）に関わる研修制度」を受けた看護師が実施できる方向に看護協会も舵を切り、研修が進められています。

本来、看護も介護も「人がその人らしく生きる」ことに寄り添い応援することを基本に、ケアという相互の関わりを通して、自ら人間として成長できるすばらしい仕事です。

本分科会は、先に述べた厳しい情勢を正しく捉え、忙しくても辛くても「より良い看護・介護を提供したい」と奮闘する仲間の看護実践や、職員育成の取り組み、職場づくりの経験などを学びあい、看護や介護本来の役割について考える分科会です。去年は看護・医療の情勢と看護学生の実態について学習会を通じて学んだ後、レポートを中心に「実習を通じての学生の学び」「世代を越えての育成」について活発な討議を行いました。年々厳しさを増す現場の中で様々な葛藤を抱えながらも、一つ一つの事例を大切にしながら育ちあう職場づくりをしていく必要があることを確認しあいました。今年も看護と介護の協働や新人・学生への関わりなどについてさらに討議を深めたいと思います。

実践を通して感じる思いを表現したり言語化したりすることは、日々の奮闘を改めて確認でき、やりがいにもつながります。それは後継者を育成する土台にもなります。どんな看護・介護を目指しているのか、何を大切に日々奮闘しているのか、自分を見つめなおす機会にしてみませんか。世代や働く分野を越えて語りあいましょう。そして、看護・介護本来の仕事ができるよう、それぞれが手を繋ぎ、社会に働きかける運動の組織や医療、福祉の充実を訴え、一人一人が健康で豊かに働き続ける一助となるような交流をしたいと考えています。

◇参加の呼びかけと募集するレポート

日々の看護・介護実践、職員育成の取り組み、職場づくりなど、現場の奮闘が見える実践的なレポート。また、現場を支える労働組合の活動なども募集しています。形式は問いません。

※若い皆さんにも、豊富な経験を持つ皆さんにも、実践者としてその誇りと喜びをきっと感じていただけたらと思います。多くの方のご参加をお待ちしております。